

新型コロナウイルス感染症コロナに思う

「あれから僕達はなにかを信じてこれたかな、夜空の向こうには明日がもう待っている。」SMAPのヒット曲の歌いだしです。思い出された方も多いのではないのでしょうか？コロナ危機の今日、どのような明日が私達に待っているのでしょうか？何を信じてこれまで来たのでしょうか？私は特別な理由もなく日本を信じてきたように思います。今はその気持ちが薄らぎ虚しい思いが心の中に満ちています。皆さんはどうでしょうか。



この数十年、夜は様々な会議、勉強会、懇親会などで、殆ど空いている日はありませんでした。コロナですべてキャンセルとなり、体の方は楽でむしろ健康的な生活となりました。診察時は感染しないように、面倒くさがりやの私には珍しく風邪症状の方に対してはN95マスク、帽子、フェイスシールドなどを着用していました（現在も、コロナ収束までの予定）最初の頃は感染に恐怖を感じていましたが最近は感染の恐怖は少し薄らいできました。慣れでしょうか？皆さんはどうですか？慣れは油断に繋がりますので注意しなければなりませんね。

夜の時間が空きましたので、溜め込んでいた歴史や経済の本を読んだり、医療—コロナ関連の論文を読んだり、たまに家内に習字（細字）を習ったり（字がいい加減で職員に何を書いてあるのか分からないと言われていました）していました。最も増えたのはテレビを見ている時間で、多分このような番組を見るのは中高年で若い人達はきっと見ないだろうなと思いながら見ていました。歌番組は殆ど知っている歌ばかりで、年齢を自覚させられました。普段と違う生活をしていると色々考えさせられることがありますね。少しは信じていた日本のシステムが実は有るのか無いのか分からない位薄っぺらなものでしたね。砂上の楼閣！今回コロナ感染拡大防止において政治は全く機能しなかったとっていいのではないのでしょうか。ノーベル賞学者本庶先生は、今回の感染において日本政府は何も対策らしい事はしていないのにロックダウンなどしている欧米各国に比べて感染者、死亡者が少ないのはとても不思議だと述べておられます。確かに米国では5月中

旬で人口10万人当たり感染者は438.6人、死亡者は26.1人。スペインではそれぞれ492.5人、58.75人。ドイツは209.8人、9.47人、ドイツは欧米の中では最も少ない国です。アジアはどうでしょうか？中国は感染者84038人、米国の5%強。ドイツの約半分です。むろんデータの信頼性に問題があるかも知れませんが、それはどこの国でも同じです。中国の10万人当たりの感染者は、5.9人で、死亡者は0.32人に過ぎません。人口が多いので比率は下がりますがそれでも欧米とくらべると桁違いに少ないですね。日本は人口10万人あたり感染者12.8人、死亡者は0.56人です（日本の場合PCR検査数が少ないので実際の感染者はもう少し増え比率は落ちる可能性があります）。韓国はそれぞれ21.5人、0.51人。台湾はそれぞれ1.9人、0.03人です。日本政府や専門家会議は日本のやり方がうまくいったなどと発表しています。私共最前線の現場からすれば、新しい感染症にどう対応するか事前になにも考えず、準備もしてこなかったのに何？という印象です。問題のPCR検査にしても検査できる施設や数に限りがあるので止む無く検査する対象を限定したというのが真実でしょう。検査をしているところでは未だに手作りの防護服を使用しています。厚労省からはPCR検査をする時には皆さんもテレビで見たことがあると思いますが、頭から足先まで防護服で纏いなさいとの指示が出ています。しかし国からその防護服の供給など無いに等しく手作りで対応していることは先に書いた通りです。太平洋戦争末期、B29の爆撃には手作りの頭巾、上陸してくる重武装の米軍に対して竹やりで国民は戦に駆り出されていましたがその様な状況を彷彿させる現在の状況です。少し大げさでしょうか？日本のやり方が有効であったなどという、さも自分の考え方が正しかったと言いたげな人々が責任あるリーダー達の中にいることに、がっかりし憤っているのです。良いように考えれば国民を安心させようとしているのだと思いますが、PCR検査を増やしたものの、アビガンがどうかワクチンがどうか色々言われていますが全て実体のないものです。いつ実際に役立つものになるか不明です。唯唯国民を安心させようとする政治的な発言にしかすぎません。そういうことも必要かも知れませんが、しかし国民は愚かではありません。その様な言説に惑わされる事なく、感染しない、させない為には人との接触を避けるのが一番と誰に言われるまでもなく判断されたのではと思います。

敦賀市においても政府が緊急事態宣言を出す遙か前から、自らの意思で外出を控えておられたようです。そのことはインフルエンザの急速な終息、外来受診者の減少から推測されます。誰かから言われた自粛ではなく言葉の正しい意味での自粛がおそらく全国的に見られたのではないのでしょうか。欧米に比べて感染者、死亡者が少ないことはアジア全体に言えることです。特に徹底した水際対策をとった台湾や、隔離、PCR検査を早期に徹底した韓国の政策についてはしっかりと学ぶべきかと思います。日本はアジア11カ国中、10万人あたり感染者は第5位、死亡者は第2位です。国のやり方が正しかったなどといった場合ではないことが理解できますよね！これ位で済んでいるのは、先に書いたように政府がなにをしたというより国民自らが正しく行動したことによると思います。欧米とアジアの差は、人種の差、流行したウイルスの差、BCG接種、などが考えられるそうですが、まだ確定的ではないようです。「Xファクター」―山中教授が最近よく発言されているものです。

第2、3波の流行に備えてどうすればよいのでしょうか？このことについては、先に書いたように、国に明確な戦略、戦術があるわけではありません。新型なのですからいわゆる専門家の方達も真に確かな見通しなどあるはずもないのです。ですから国にそれらが無いのも無理はありません。ない物ねだりしてもしようがないので、一人一人がこれまでのように気をつけていきましょう。

これまでの経験から幾つか気をつけて頂きたい点を述べていきたいと思います。テレビとかで色々怖い話が出ています。テレビなどで言われていることは、東京とその周辺、名古屋、大阪、福岡とその周辺のことで考えて下さい。コロナが怖くて、家から一歩も出ず、太って、下肢が弱ったという方がとても多かった印象です。先の人口密度の高い所では家から出ないことも必要かも知れませんが、敦賀などでは家から出てすぐに人と会うわけではないので、むしろ家の中でボーとしているより外に出て体を動かし免疫力を高めることが大切なのではないのでしょうか。これからは熱中症にも気をつける必要があります。充分水分を取りながら積極的に体を動かしましょう。注意して欲しいのは久しぶりに会った嬉しさからつい長話をしてしまうことです。マスクをしていても近寄り過ぎれば役にたちません。気を付けましょう。またコロナを心配し過ぎて少し体調が悪い日が続くとコロナじゃないかと心配して精神的に参ってしまっている方もおられました。あらためて確認します。コロナには今のところ特效薬はありません。従って医療機関を受診しても治療は出来ません。コロナ陽性で入院されたかたの殆どはなんら特別な事もされることなく、ただ熱を計っているだけとのことです。家で熱を計って安静にしているのと変わりありませんね？（自宅待機していて重症化した方もおられたので留意する必要があります。しかし入院中에서도急に重症化してDrがあわてるといったシーンがよく報道されていましたね。急な重症化のメカニズムも少しずつ分かってきたようで少し期待が持てます。）これまで通り石鹸でよいのでしっかり隅々まで手洗いを

しましょう。うがいも無駄ではないと思います。マスクは車や電車に乗る時や、人と近くで接触するときだけで十分です。マスクしていると呼吸数が増え息苦しくなり、熱中症になりやすいので、水分補給をしっかりしましょう。

国破山河在。国破れて山河在り。杜甫の詩の最初の一節です。国は戦乱で破壊されたが、大自然の山河はいつもと変わらないと言うような意味です。今年の私達の春は戦乱ではなくコロナウイルスにより社会のシステムは破壊され、桜を見ても心しまないものになりました。そして私達の未来はどのようなものになるのでしょうか？

今後企業が存続できるものとできないものに峻別されていくことが予想されます。それに従い失業や転職、賃金の減少などが出てくる可能性があります。テレワークなどパソコンを使って仕事をするのが奨励されています。しかしそれではできない仕事も多くあります。介護や看護はそうですね。

国の借金も今回の対策でさらに増えました。未来の国民に多額のつけをまわしてしまっています。黒川日銀総裁の政策により、私達は銀行にお金をあずけても殆ど利息が付かない状態になり、一方大企業は自社株買いなどにより、実体経済以上に株価を上げ、企業内留保が400兆円に達しようとしています。半分ぐらい国に寄付したらと私は思いますがどうでしょうか？

何はともあれ、今までと全く同じ社会に戻るということはなさそうです。田舎にいとあまり感じないかもしれない。おそらく東京から変化がじわじわと地方に押し寄せてくるのではないのでしょうか？今回のことで満員電車に乗って毎日時価の高い都心に通勤することの愚かさに気がつき、地方に住んでテレワークをしようとする人々が出てきているようです。人間的な生活ということ考えると、田舎の方が人間的だと思います。ひょっとして、これからは何もない田舎の生活が、新型ウイルス感染のリスクが少ないことが実証されたので、健康と命を守るために良いものだという考えが広がるのではないかと思います。そうすると田舎の私達は余り変える必要がないことになります。パソコン使う頻度が増えるぐらいですかね。

これまでのように憑かれたように経済成長を追い求め、長時間働き続けることから、もう少し余裕をもって毎日をすごす生活への転換がなされるといいのかなと思います。生きることの価値の転換ですかね。

世界も日本も、政治的、経済的、社会的に決して安全、安心な状態になくもろいものであることが、今回のコロナ感染により明かになりました。様々な情報に振り回される事なく正しく取捨選択し、自分の頭で考え家族、友人、地域の人々と連携、連帯し自分たちの未来を作って行きましょう！

夜空のむこうにはもう明日が待っています。

川上 究